



【号外】山いき隊員だより (栗島隊員)



～ 栗島からのお知らせ ～

- ★令和3年度も継続して水窪地域で活動を行います。引き続きよろしくお願いたします。
- ★西浦地区伝統のわらじ・わら草履の作り方を解説した動画をDVDにしました(右写真)。文化会館にも置いてありますので、館内やご自宅で視聴いただけたら嬉しいです。
- ★4月末～5月のどこかで、山いき隊員としての活動報告と1年間で作った資料や小物等の展示を兼ねた発表の機会を設けさせていただく予定です。場所や日時が確定しましたら、またお知らせします。



小出しシリーズ ～ 森林・林業今昔 ～

現在、水窪や周辺地域の森林・林業の歴史と現状を調べ、それらの情報をまとめた資料を作成しています。資料の作成には時間が必要ですが、少しずつ隊員だより等を活用して情報を紹介していけたらと思います。今回は、林道が整備されていない時代に丸太を山から運び出す時に使っていた手法の一部を紹介します。

木馬 (きんま)



木製のそりに丸太を載せて木馬道(きんまみち)の上を人力で引きます。木馬道は、丸太を枕木状に並べて杭で留めた構造物のことで、油を塗って滑りやすくします。木馬には硬いカシの木を使うことが多かったようです。木馬による搬出作業の苦労は並大抵のものではなく、力持ちで足元が素軽い、機転が利くなど色々な条件を兼ね備えた者しか務まらなかったそうです。

参考：広辞苑第七版、目で見る森林伐出手法(辻本弘義)
写真：天龍木材株式会社所蔵

水窪駅隣接の水窪貯木場を起点に水窪川からの支流の戸中川沿いを遡上する21kmほどの鉄道路線が敷かれていたそうですが、水窪ダム建設や林道の整備に伴い昭和39年度に全線が廃止になっています。ここで使用されていたガソリン機関車は、廃止直前に当時の天竜林業高校へ教材として譲渡され、さらに現在は高知県馬路村の魚梁瀬(やなせ)森林鉄道で整備の上、保存されているそうです。

参考：特撰森林鉄道情景(西裕之) 写真：水窪町森林組合所蔵

森林鉄道



修羅(しゅら・すら)出し



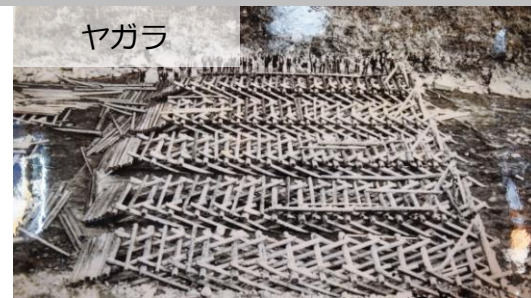
修羅出しは材木を溝状または枕木状に並べてその上を滑らせて丸太を一か所に集める手法です。丸太がうまく滑っていくような傾斜・カーブの設計や中継所の選定が必要だったと予想されます。滑ってくる材木を中継所や土場(どば)に落とす役を馬子(まご)、馬子が落とした材木を整理して積み上げる役を木直しといいます。彼らは独特の合言葉を用いるなどして連携し安全に配慮していたそうです。

参考：目で見る森林伐出手法(辻本弘義) 写真：水窪町森林組合所蔵

ヤガラは上流から流した丸太をせき止めて一か所に集めるための構造物をいいます。木材や石を利用して組み上げます。川をせき止めた後は、上流から流した木材を貯め1本ずつ下流に流し、天竜川の途中で受け取り、それより先は筏(いかだ)にして運んでいました。今ではもう見かけないですが、昔は川の流れを利用した運搬も頻繁に行われていたようです。

参考：天龍木材株式会社ホームページ
写真：天龍木材株式会社所蔵

ヤガラ



シリーズ ～地域をめぐる～

「焼畑・山づくりの文化」



アワ



ヒエ



農作業用具（民俗資料館）

＜焼畑とは＞

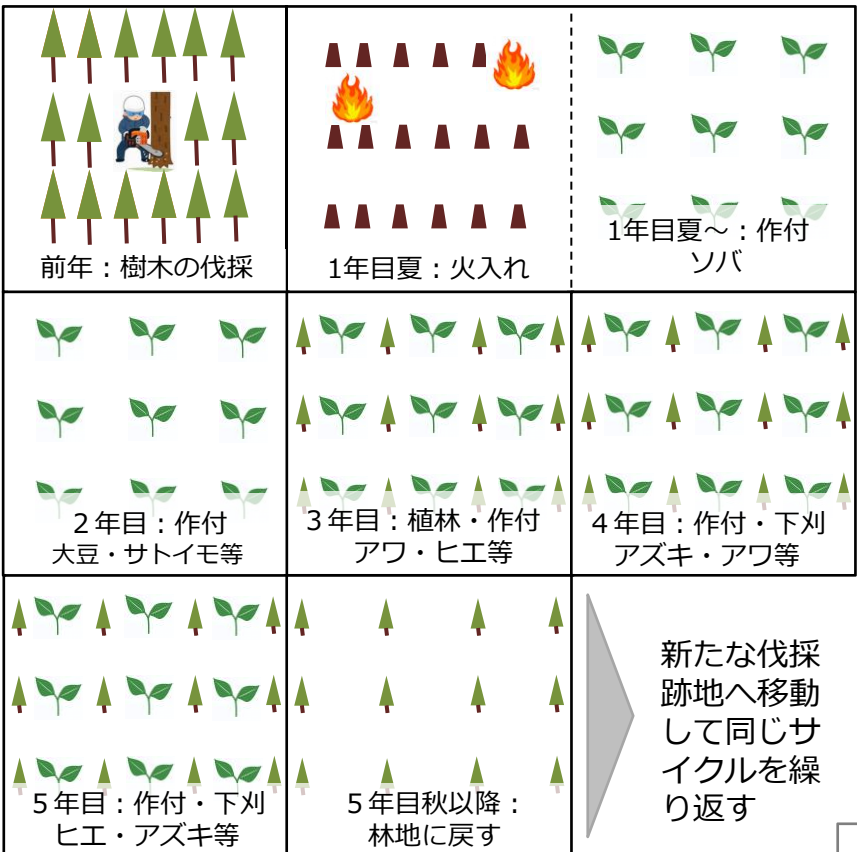
焼畑は、山林を伐採し苗木を植えた植林地において苗木の間の空間を利用して農作物を栽培することをいいます。こうした焼畑農業のことを「山づくり」ということも多いそうです。

焼畑は八重山諸島から北海道まで広く行われていましたが、昭和30年代頃になると衰退しはじめ、高度成長期に入って完全に終わりを迎えました。

焼畑は本来食糧を確保するために行うものでしたが、焼畑農業の末期には、お茶や養蚕のための桑、製紙用のミツマタなどが積極的に栽培されるようになったそうです。現在はそういった焼畑耕地も姿を消し、その大部分は杉・ヒノキなどの植林地になっています。

表：昭和30年前後の水窪の焼畑暦（「水窪の民俗」より）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
前年	← 立木伐採 →						← カワムキ →	← 出材 →	
1年目				← 火入れ (山焼) →		↔ ソバ種まき		↔ ソバ収穫	
2年目	↔ 大豆種まき	↔ サトイモ種芋植え			↔ 下刈除草		↔ 大豆収穫	↔ サトイモ収穫	
3年目	↔ 植林	↔ 枝縛り			↔ 下刈除草		↔ アワ・ヒエ収穫		
4年目	↔ アズキ・アワ種まき				↔ 下刈除草		↔ アズキ・アワ収穫		
5年目	↔ ヒエ・アズキ種まき				↔ 下刈除草		↔ ヒエ・アズキ収穫	← 下刈後放置	



新たな伐採跡地へ移動して同じサイクルを繰り返す

＜水窪と焼畑＞

水窪でも植林地において焼畑が行われていました。数年間を1サイクルとした輪作で作付パターンは地域や家によって異なります。代表的な事例を以下に挙げます。

- 1年目：ソバ
- 2年目：大豆・サトイモ等
- 3年目：アワ・ヒエ等 + 苗木の植林
- 4年目：アズキ・アワ等
- 5年目：ヒエ・アズキ等

1年目には必ずソバを蒔いたそうですが、これはソバであれば短期間で実を付け夏に火入れをしても11月上旬には収穫できるという理由からだそうです。

水窪でも焼畑が見られなくなって久しいですが、もし経験したことがある方がいたら、是非お話を聞いてみたいです。

引用参考 「焼畑民俗文化論」野本 寛一 著
「水窪の民俗」遠州常民文化談話会 発行

